

ジモトで座談会 ～市長と明日のまちを考えよう～ 白板地区 報告書

1 開催日時等

- (1) 日 時 令和7年7月28日(月)
午後5時～午後7時40分
- (2) 場 所 白板地区公民館 1階 大会議室
- (3) テーマ 白板地区の未来の学校
～学校と地域がともに成長する未来へ～
- (4) 参加者 21名
臥雲市長、町会連合会、丸ノ内中学校・生徒会・PTA、
子ども会育成会、丸ノ内スポーツクラブ運営委員会、地区公民館
学校教育課、学校支援室
- (5) 傍聴者 23名(一般傍聴者3名、市関係者15人、地区職員5人)



2 次第

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 地区代表者あいさつ
- (4) 自己紹介
- (5) 丸ノ内中学校改築概要
- (6) 意見交換
ア 地域が学校に求めること
イ 学校が地域に求めること
(主に部活動地域移行について)
- (7) まとめ
- (8) 閉会



3 意見交換

- (1) 地域が学校に求めること
ア 地域コミュニティの場

(ア) 【白板地区町会連合会 古市副会長】

白板地区14町会は南北に長い地域で、皆が一同に会する機会がなかなか出来ない地域であるが、そんな中でも住民の気よりはすばらしく、町会連合会を中心に各種団体が手を取り合い、情報交換や事業の展開を図ってきた。

また、地域の中にただ一つある丸ノ内中学校が、ちょうど地区の中間にあり、昭和の時代から、校庭を使って丸ノ内中学校は町会運動会が開催されるなど、地域住民の拠り所であった。

今回の校舎全面改築に向けて、地域住民の要望は、生徒の皆さんと各種スポーツでの交流、お茶・お花などの伝統文化や料理実習など一緒に学べるスペースを設置していただきたい思いである。ご配慮いただきたい。

(イ) 【白板地区町会連合会宮渕東町会 井垣副町会長】

以前炊き出しボランティアで第二地区に行った。そこに防災緑地というとても広い公園があって、防災倉庫がすごく沢山並んでいた。白板地区には広くて平な公園がない。丸ノ内中学校の校庭だけが唯一の場所。そこは今、防犯のため校庭は解放されていないが、できれば東の一角にでも、気軽に普段から子供や高齢者が集うことができる場所があればいいなと思っている。

昨シーズンすごく湿った雪が降った。通学路の雪かき、坂道だが雪が降るたびに

行った。通学している中学生をみて、雪かき一本持って雪をかきながらきてくれないかなと思った。雪かきを坂の下と学校に用意をしておいて、通学途中に雪かきをしてもらえると、近隣住民や高齢者も助かると思う。中学生は力もあるので、大いに期待したいと思っている。

余談だが、県内他市にあるような動物園や水族館を整備いただきたい。

【臥雲市長】

市内の自然公園数は、地区によってまちまち、できるだけ均等に整備することが行政の役目であるが地理的条件などから難しい。一方、学校の校庭や体育館を平日生徒が使用しないとき、地域住民が使えるよう学校側に検討をお願いする。

中学生の雪かき協力、地域と生徒との関係性が深まり、少しのことでも頼める間柄になれるかが大事。オープンスペースができて、顔と顔を合わせて気心が知れた中になってこそ、生徒も地域に対して出来ることは何か考える機会になる。また、生徒が地域の大人や年配の方々にサポートしてほしい、といった双方向の関係性を作してほしい。

イ 地域活動の場

- (ア) 【町会連合会副会長 青木副会長（兼丸ノ内スポーツクラブ運営委員会副委員長）】
当クラブでは、学校開放事業で体育施設を利用している。

令和7年4月から、開放事業の見直しが行われ、利用上限が設定され、希望する全ての地域クラブ「まつもと子どもチャレンジクラブ(通称松チャレ)」が学校開放の登録団体となった。

令和9年4月からは、利用料金が倍額となり、予約制限から、今の活動の5分の1に縮小してしまう。

そこで、①地域利用団体が優先して学校施設を利用できる方法について、②「松チャレ」に登録するメリットについて、市長にお尋ねしたい。

【臥雲市長】

なぜ部活の地域移行をする必要があるのか、今までどおりでいいという声があるが、そもそも学校の先生は、昔と違って時間的、肉体的、精神的に余裕がない。学校現場は大変疲弊している。今までどおりできないので、部活の地域移行を進めている。

「何が良くなるのか、今まで使っていた時間帯が使えない、松チャレの登録はうまくいくのか」もっともな意見だが、そのことに100点の回答は誰にもできない。65点、70点といった折り合いを、皆と話をし、少しでも子供たちのスポーツや文化活動の環境を整えていく。

この部活移行、松チャレは、今の段階では決していい方向にはなっていない。一つ一つ課題と向き合って解決していくプロセスが、私は学校と地域との距離を近づけることになると思っている。質問の趣旨に真正面から答えていない部分もあるが、具体的には、話し合いの場をもっと持って改善を図っていく。

- (イ) 【白板地区公民館内藤館長】

生徒と地域住民の交流があるので、新たな中学校では、地域住民が自由に入出りできるオープンスペースがあり、住民同士や生徒との交流がいつでもできる環境の整備、また、地域住民や父兄が自由に授業参観できるなど地域に開かれた学校を要望したい。

次に、白板地区で行っている「運動会」や「文化祭」などの地域活動を、中学校のグラウンドや校舎を開放して行うことは可能か

【臥雲市長】

まず、丸ノ内中学校坂口校長先生から、現状で難しいところはあるが、何がハードルとなっていて、それを超えるためにどうすればよいとお尋ねしたい。

【丸ノ内中学校 坂口校長】

保護者には、いつでも授業を見ていただいていい心構えでいるので、地域の方にも、いつでも学校の授業をみていただければと思っている。

放課後の居場所、フリースペースは、子どもの事情で次の活動に行くのに時間がある場合、学校の空き教室等を活用できると思うので仕組みを考えたい。

ただ、公民館で過ごせる機会もあるので、寄り道しないで公民館を利用できる子どもには、活用させていただきたい。多様な居場所という点では、中学校でも公民館でも利用できることが望ましい。

白板地区大運動会や文化祭などグラウンドや体育館等の活用は可能と思うが、施設予約との関係があるので、要相談でお願いしたい。

【臥雲市長】

授業参観でも、先生方が把握したうえで、先生以外の社会経験を持っている人たちが、子どもたちに対して肯定的なメッセージを、関係性を作れるという形がとれたら、これから長い目で見たときに必要なこと。

新しい校舎に、オープンスペースを作るうえで、ここから先は子どもの個人情報や学校関係者だけで情報を管理しなければいけないという問題があるので、その線引きは、新しい校舎を作るときの一つのポイント

ウ 生徒・保護者等から学校に求めること

(ア) 【丸ノ内中学校生徒会 平形会長】

丸ノ内中学校は、町別子ども会といった地域の子どもの会が無くなったため、地区行事に学校として基本全員で参加する機会がない。また、個人ではなかなか参加しづらい。改築の際には、地域室やオープンスペースを活用して、学校内で地域の方と交流する場があればと思うので検討いただきたい。

(イ) 【丸ノ内中学校生徒会 青木副会長】

校舎と独立している体育館や柔剣道場を地域に開放している。校舎を開放すると、セキュリティなどの諸問題があり、盗難や器物破損などのトラブルが起こりえないとは言えないので、校舎のロッカーに鍵をつけるなどでできれば、校舎もオープンスペースとして活用できると考える。



【臥雲市長】

平形さんから、もっともっと地域との交流を。そういつていただければ、今日お集まりの地域の大人の人たちにとってもウェルカムなことだと思うし、そのときに個人としては開かれているけれども、なかなか敷居が高い。

自分が、もし中学生の立場だったら、自分だけ行っても周りが行かないとなかなか最初は非常に行きにくいだろうなと思うし、それが何かまとまって参加できるような機会を一つきっかけに作れば、そこから先は個人でということになるだろうなと。これは友達同士とか新しいプランに参加するときと同じだが、特に、そのハードルは、私たちが思っているより高いと思う。半強制ではないが、みんなでやろうよとなるような場を作ってもらえれば、そこから先は参加できると思う。

町会連合会やそれぞれの団体の方々と、ぜひ年に1回、2回企画をしていただいて、最初の一步を踏み出せるようにしてほしいと思う。

青木さんの休日の施設開放は、体育館やグラウンドだったら、今も行われているのでもいいが、いざ校舎や教室の開放は、今の学校の古い施設のなかでは、確かにオープンスペースは難しいといったことがたくさんあった。体育館については、電子キーを全部導入していった、いちいち鍵の受け渡しといったところから、二度手間三度手間になったり、それがあがるゆえに、効率のよい施設利用ができていないことについて改善する取り組みを進めている。

指摘のあった校舎・教室について、校舎の構造上、ここから先は入れない、ここより手前は自由度を上げて利用してもらえ、といった校舎の構造にしていかなければと思っている。新しい校舎に向けて重要なことと思っている。

(ウ)【丸ノ内中学校PTA 中嶋副会長】

私から2点市長にお願いしたい。

①不登校児の居場所づくり、②放課後の生徒の居場所づくり

1点目の不登校児の居場所づくりについて、どの子も新しい仕組みで義務教育が受けられる仕組みを、松本市の中心市街地の白板地区から、建設予定の新校舎、丸ノ内中学校からスタートしていただきたい。義務教育は誰もが普通に受けていると思われるがちですが、不登校と呼ばれている子たちは、日々（普段）中学校に行けている子どもたちよりも、学業や支援がしっかりと受けられていないのが現状。

不登校であるという事実とも不登校の子たちは戦って、毎日一生懸命生きている。成長期や子ども時代は限られているので、日々声を発せられる不登校という現実苦しんでいる子たちがいることを、今よりも目を向けて支援づくりを早急をお願いしたい。

12才から発症しやすいといわれる起立性調節障害、この障害は、自立神経、朝起きられず、午前中は活動できず、午後から活動がしやすくなるというもの。そのため学校の始まる朝8時には登校ができず、身体の調子が整ってきた午後には、学校が終わってしまう。

今でも、不登校の子どもたちの支援制度はあるが、まだまだ完全ではなく、不登校の子どもたちやその親は、日々我慢したり試行錯誤している状態。また、不登校となった事実も、自ら不登校になりたくてなったわけではないお子さんもたくさんいる。

不登校スクール、オンライン授業の受ける場所、受け方は、様々作っていただいているが、まだまだ登校できているお子さんたちよりも格差があるのが現状。成長期は二度と帰ってこない。一人ひとりの子どもたちの心や家庭の声に今以上に向き合ってください、どの子も健やかで豊かな教育を受けられるよう、松本市の教育は、白板地区の不登校の子たちへの教育は、フレックス制度のようなものや画期的なものであってほしいと思う。

放課後の居場所づくりについて、白板地区は公園の数も少なく室内遊びに偏ってしまうことが多いのが現状。公園があっても防犯対策の観点から、なかなか子どもだけでは遊ばせることができない。

解消方法として、学校の開放があれば、不登校の子たちとの接点の可能性も出てくるし、地域の方と触れ合うことができる。また、地域の方も子どもたちと身体を動かしたり、心を動かすこともできる。

どの世代の方も、室内に閉じこもる時間が少しでも少なくなることが大切。自宅にこもることのないような、成長期にのびのびと成長できるような環境、適切な支援をどの子もうけられるような環境づくりをぜひお願いしたい。

【臥雲市長】

不登校な子どもたちが、通常の学校の施設や通常の学校の授業の時間には、足を運べない。その状況にできるだけ、そうではない場を学校の中に作ったり、あるいは学校の中が心理的にプレッシャーになるとなれば、学校の中ではない場所に作ったり、あるいは、もっともっと学校とは違う、大人の学びを支援する見守る場を行政としてもサポートしたいということで、いくつかの状況に応じた取り組みはしているが、本当に一人ひとりに向き合わなければいけない状況というのは、もっとデリケートで、もっと一人ひとりに目を向けないと、苦しい思いをされるという状況がまだまだ残っている。

それに私たちが向き合うには、現役の学校の先生だけでなく、OB・OGとして学校の教育に携わった人、また、子どもたちと向き合う経験を長くされてきた方々と、教育現場や教育委員会がしっかり連携して、大勢の大人に、子どもたちに向き合ってもらえる状況を、私たちが作っていかなければ、学校に通っている子どもたちに、救いの手が届かないということになってしまう。

今の取り組みで満足することなく、よりもっときめ細かな、もっと一人ひとりに目を向けることができるような状況を作っていきたいと思う。

丸ノ内中学校の新しい学校づくりの中にも、学校に行けない子どもたちのための学校をどう作っていくか、私たちににとって大きな宿題。ぜひ、今日の地域の皆さんとの対話をもっと深めることで、不登校の子どもたち一人ひとりに、できるだけきめ細かい対応をしていくことへの糸口があると思っている。

2点目の放課後の居場所づくり、自宅にこもらないためにも、学校の施設開放、空間的にも時間的にも、今まで私たちが思っていたレベルをもっともっと大きく超えて、開いていくことが必要と改めて感じた。

(I) 【白板地区子ども会育成会 西沢第3ブロック保護者代表】

私の所属している蟻ヶ崎西町会の子どもたちと、ラジオ体操や青山様などがあったので、直接子どもたちや父兄に聞いた意見を箇条書きにした。

まず質問ですが、

- ・現中学校の西側が土砂災害警戒地域だが、大丈夫なのか？
- ・具体化される丸ノ内中学の具体的な進捗状況等はどう報告されるのか？

次に要望ですが、

- ・自習室、自習室教室が欲しい。
- ・放課後の居場所となる空間が欲しい。
- ・運動する体育館と式典や催事会場が別々になるとうれしい。
- ・充実した図書室が欲しい。
- ・防災拠点ともなりうる施設、炊き出しができる空間があるといい。
- ・ある男の子が、毎日通いたくなるおしゃれな建物がいい。

地域には多様な大人も多くいて、気軽にある程度継続的に交流できることが、自分の将来を考えていく中学生には、良い刺激になると考える。施設管理の面で難しいかもしれないが、専門の皆さんで知恵を絞って、先生方の負担にならぬよう、子どもたちのためになら、自分ができることをしようと考えている地域住民も多くいるので、よろしくお願いしたい。

【臥雲市長】

松本市は山に囲まれているので、土砂災害警戒区域が全くない地区は非常に限られている。土砂警戒区域いわゆるイエローゾーンは、市内に多くあり、そこにお住まいの方には、災害情報に関心を強く持っていただくよう呼びかけている。

この会議で出た前向きな意見は、新しい中学校の設置に向けて検討していく話と、できるだけ早く地域の皆さんとの場を作っていくという話がある。子どもたちからリクエストのあった、地域との交流の場、対話の場を、できるだけ早く作っていただくよう、私からも願います。

いただいた要望は、いろいろな制約があるなかで、例えば体育館と式典や催事用ホール、どちらも中学校に整備することはなかなか難しい。

図書館は、学校開放、開かれた学校ではかなり優先度が高い部分なので、校長先生がいますけど、図書館はその方向性にしていただければと思う。

エ 防災拠点・避難所として求めること

【白板地区防災連合会 逸見会長】

今年も梅雨明け前から猛暑が続いているなか、今回、そこ（会場内）にあるスポットクーラーを指定避難所に配備いただき、大変感謝している。引き続き、防災備品の拡充をぜひよろしくお願いしたい。

改築により、指定避難所機能が充実すると思うので、2点お願いしたい。

- ① 学校の場合、避難所を体育館としているが、改築後は空調の整った校舎を避難所として活用したい。
- ② 長期避難が想定される場合、授業の再開により生徒と避難者と共存となる。その場合の校舎の使い分け、セキュリティ面でどう考えているか。

【臥雲市長】

危機管理部に確認をしたが、丸ノ内中学校は体育館の他に、空調設備のある普通教室など合わせて18の部屋を避難スペースと定めており、丸ノ内中学校避難所運営協議会の役員会と危機管理部で共有していることなので、まだしっかり情報伝達がされていないければ、改めて情報を共有させていただく。

やはり大規模災害時の避難所では、一定の期間を（避難所に）暮らすこととなるので、尊厳のある生活を送れることが重要。快適なトイレの環境、全ての学校施設でトイレ改修を行っているのもその一環。それから、空調が完備されない体育館などは、スポットクーラーなどで対応する。

新しい校舎の丸ノ内中学校では、引き続き空調のある普通教室を避難スペースとして使用することを想定しているので、学校の施設のなかの間仕切りの部分について、校舎づくりでの重要な検討課題にしてもらいたい。

次に、本当に（避難が）長期化し、教育活動の再開が見通せるという状況になったときに、教室などの避難スペースとして使っている部分をどう制限して、どこで線引きをして同線が重ならないようにするか、しっかりと準備をして、いざそうなったときに対応できるよう備えていく。

本当に我々が予期しない極めて大きな地震災害が起きた時には、行政と、地域の皆

さんが一体となって、どうベターな状況を作っていくかということに取り組んでいきたいと思う。

冒頭申しあげたとおり、尊厳ある生活を送れる避難所の充実は、日本は、ヨーロッパ各国と比べて極めて遅れていると指摘されている。今、石破総理大臣は防災庁の設置について、極めて高い問題意識を持っている今の政府であるので、国や県と連携して、自治体がやるべきことを行っていく。

(2) 学校が地域に求めること（主に部活動地域移行について）

ア 学校側から地域移行に求めること 【丸ノ内中学校 坂口校長】

学校からは、今後地域移行を行うにあたり、様々な地域の皆さまにご支援いただきたいということ。特に、丸ノ内スポーツクラブには大変お世話になっていて、卓球を中心に部活移行をお願いしていくことになると思うし、他の種目についても考えているとお話をいただいている。種目により、今後の受け皿や指導者の問題があるので、学校としても職員と相談しながら進めていきたい。

イ 地域移行の受け手側 【丸ノ内スポーツクラブ運営委員会 岩下副委員長】

地域移行の課題や問題点を整理し、その解決を図るための提案をしたい。

- ① 指導者の問題、毎週各教室を担う後継者がなかなかいない。
- ② 松チャレ登録は、全中学校からの受け入れが前提なので、管理面の不安がある。少し研修を受けたコーチが、全員をフォローすることは難しい。
- ③ 全国的な部活移行が、休日、平日とも松本市ほど進んでいないので、今後の様子をもう少しみてもよいのではないか。
塩尻市や安曇野市では、休日の移行は令和8年度中であり、平日の移行は、その後判断する。安曇野市では、クラブ指導者に市から当面謝礼を支払うことが、市民タイムスに掲載されていた。
- ④ スポーツ庁の中間とりまとめでも、令和10年度までに、土日祝日の部活移行を全国的に進めていく。その結果を踏まえ平日の展開も含めて、令和13年度を目安にして考察していく方針とのこと。新しい指針が8月に示されるので、それを受けて松本市としても考えていただけたらと要望する。
- ⑤ 受け皿としての松チャレのスポーツ登録団体数は現在登録44団体、目標に対してかなり少ないので、もう少し受け皿を増やしていただきたい。

なので、平日の部活動移行期間を、もう少し延ばしていただきたい。

やはり親の送迎の負担を考えると、学校の授業の終わった夕方2時間を、部活か若しくはクラブ活動で行うのが一番良いと思う。また、国のほうも、予算が付いてくると思うので、ぜひ予算を付けていただき、

- ① まず私のようなシニア世代で、夕方から行ける各競技の専門の方に、最低時給で担っていただく部活指導員を増やしていただきたい。
- ② 松本大学や専門学校のスポーツ、文化系の生徒さんに、ちょっと研修していただき、謝礼を払ってフォローしていただく。
- ③ 部活に取り組みたいと思っている先生に手当てを払い担っていただく。
- ④ 地域クラブに謝礼を考えて、松チャレでなくてもフォローいただく。

最後に、現在の丸ノ内中学校の卓球部1年生全14人に意見を聞いたら、全員が部活は残してほしい、丸ノ内中学校の先輩臥雲市長によりしくお願いしたい、と申しだったので、その旨お伝えする。

【臥雲市長】

部活の地域移行、教育委員会が積極的に発信しないのが私は不思議だが、今の先生にアンケートを取ると2割の先生が部活の指導をやりたい、8割の先生は、やりたくない、できないと回答している。それを長く引きずれば引きずるほど、その先生にとっても、その先生と向き合わなければいけない子どもにとっても、私は決していいことではないと思う。

スポーツ部や教育委員会と話をしている、一番私が齟齬（そご）があると思っているのは、松チャレ＝地域クラブ、松チャレに囚われすぎている。もう少し緩やかに幅広い受け皿を作れるのに、そうでない前提の議論になってしまっている。いただいたご指摘と私の今の受け取りと重なっている。

もう少し緩やかに、この従来のすべて学校が施設も指導者も受け入れて全部やるというあり方ではないあり方、中間的なあり方、それをもっと我々としては働きかけて、そして部活の地域移行に地域クラブのあり方に参加いただける状況を作らなければいけないと思っている。

部活をやりたいくて中学校の先生になった、この2割の方には引き続き当然やっていただき、そして出来るだけ岩下さんのご指摘にあったように、学校の放課後の夕方2時間、それを出来るだけ学校施設を使ってやっていただく、これを（松チャレの）対象から除外する必要はないはず。松チャレにこだわらず、受け皿をどう意欲のある学校の先生も含めて作っていくか。国あるいは我々自身が一定の報酬を提供していくことは、松チャレ以外の団体に対しても再検討をすべきではないかと思う。

あと、スケジュールについて、メリット、デメリットはあるが、長野市では、平日も含めて完了したと言っている一方で、先送りする自治体もある。私はこの移行期が長くなることは、決して子どもたちにとってもプラスでないと思っている。休日平日のスケジュールは維持をして、そして先ほどからいただいたご指摘、改善策などを、教育委員会側、そして市長部局、スポーツ部側の両方から働きかけ、もっともっと加速させていく。

ウ 生徒・保護者等から求めること

(ア) 【丸ノ内中学校生徒会 平形会長】

一番大きく変わるのは、平日の部活動、地域クラブの移動と思う。

普段、大会などの送迎は保護者が行う。休日で仕事がない日だからやってもらえたが、平日は親が仕事で、地域クラブは必ずしも自分の中学校ではないため、その移動は徒歩や自転車になると思うが、遠い会場では、遠いし送迎もしてもらえないからやめておこうと躊躇してしまうと思うので、ハードルが下がるよう工夫をお願いしたい。

(イ) 【丸ノ内中学校生徒会 飯島副会長】

地域移行で心配なことは、練習場所の確保と移動時間

場所については、部活の種類によって、例えば、吹奏楽部の場合、防音かつ大人数で利用できる施設が必要だが、近隣にはなかなか無いと思う。遠くの会場での練習になるので、移動時間が長くなってしまう。

そのため、練習できる施設を多く用意してもらいたい。もし、難しければ、クラブの規模を小さくして、もう少し施設を選ぶ自由度を広げてもいいのではないかと思う。

【臥雲市長】

今の生徒自身の立場からすれば、まず移動手段が問題で、この問題を乗り越えるための方向性は2つ。

一つは、学校施設を利用する形態の活動をできるだけ増やす。部活動に意欲のある20%の先生には、今の形態をきちんとやってもらい、さらに、学校の開放度を上げて、その先生以外の大人（指導者等）が学校に入ってくることを、極めてハードルの低い状態にする。学校施設で行われる地域クラブの数を現状と全く同じまでいかなくても近づける方法。

もう一つは、中学生の移動手段として、安全面をしっかりと配慮したうえで自転車に乗って自由に移動できるようにする。例えば、学校に自転車で行って、帰りは一旦家に帰るというルールはやめて、学校から自転車を通える範囲にあるクラブ活動には、直接自転車で行く。親の送迎が難しい中学生にとって、一つの移動手段となる。

次に会場の問題として、特に吹奏楽の話があった。文科系も含めてあらゆる部活動で、一番学校から離れられない部活が吹奏楽。楽器が個人所有でないものが多く、学校の備品であることから、会場も指導者も、吹奏楽は従来の部活に近い形でやる必要があると思う。

部活の地域移行の議論を始めて2年あまりが経つ。移動手段や会場について、できるだけ細かく話し合っ、今の状況よりも悪くならないようにしたいと思う。

(ウ)【丸ノ内中学校PTA 渡邊会長】

地域移行に関して、スタートさせることも大事だが、3年後、5年後どうなるかをぜひ検証していただきたい。

地域移行により、参加しづらい状況がありはしないか。移動の問題、保護者の送迎の問題があり、ちょっと二の足を踏んでしまう。また、競技性が高まってしまって、自分がそのチームでやっていけるのか不安をかかえる生徒がいることを聞いている。生徒を受け入れやすくできる地域移行、今までの部活動の良さは、通っている学校で気軽に参加できることで、入ってくる生徒が、半分経験者、半分中学デビュー、というなかで、みんなが楽しく参加できた環境があったなかで、地域移行によって阻害されている部分もあるのではないかなと思うので、生徒の3年後のスポーツ活動、文化活動への参加率をぜひデータとして出してほしい。

次に、地域移行したチームが永続的に活動できる組織になっているかどうか、先ほど20%の情熱のある教員が一生懸命やってほしいと臥雲市長は述べたが、熱量がありすぎて先生主導で立ち上げたチームも中にある。その先生は、転勤になっても立ち上げたチームのことを最後まで責任をもつと言っていたが、物理的に難しいと思う。

先生が主導となったチームは、私どもに全く相談がなく、学校の先生が主導権を握ってしまっていて、この先私たちのほうが永続的にやるノウハウを持っているのに残念な気持ちにもなった。そのため、3年後5年後に、そのクラブが永続的に活動できているチームなのか、今後できるチームなのか検証していただきたい。

【臥雲市長】

非常に現実的な、本質的な課題を指摘していただいたと思う。

中間層的なところに対して、部活という仕組みは向き合っていく、ともすれば、部活ですら本当の初心者には少しハードルが高かったり、逆に真剣に取り組みたい人には少し物足りなかったりということも出てくると思うが、大きなマジョリティのところを受け止められる仕組みとして、これまで来たと思う。

そのうえで、今起きていることは、競技性の高いところに行き過ぎることだったり、先ほどの先生の例で、今まで以上に自分のあり様を強く出すようなことに、結果的につながるような状況を生んでいるという指摘について、行政としては一番目を向けなければいけないと思っている。

松チャレを先ほど見直す必要があると言った一方で、松チャレはどちらかといえば

今のようなあまり競技性を高めないでください、そして、初心者でも参加できるような環境を整えてください、ということが、基本精神みたいなところにあって、逆にそれは受け皿の広がりやを少し阻んでいる側面にもなっていると感じる。

行政が目指したいところは、競技性の高いことを目指すチームもあれば、中学3年間はスポーツを親しみたい、楽しみたいと思っている人たちが、参加できるチームもあれば、理想論ではあるが、多様な受け皿をどうやって作っていくかが一番の目指すところ。

そのうえで、今の参加率とクラブの持続性は、必ず目を向けて再検証しなければいけない。

できれば、本当に目指したいのは、地域に根差したクラブが、しかもそれが同じ方向性を共有されていて、そのクラブの指導者の皆さんの中で、世代交代あるいは仕事の忙しい・比較的時間があるというなかで、指導者を担っていただける、そういう人たちをとにかくこの地域に増やしていく、このことが3年後5年後一番問われると思っている。

(ウ)【白板地区子ども会育成会西沢第3ブロック保護者代表】

社会体育のほうで競技をやっていると思うことは、より向上を目指す、強くなりたい、うまくなりたいと思う子と、体力・健康維持・楽しむということを望む子と、二極化していると感じる。

そのうえで、松チャレがどういう位置づけなのかが重要。住み分けとして楽しむのが松チャレで、頑張る子はクラブチーム、という住み分けになるのか、これから一緒に考えなければいけないと思う。

あと、全国中学体育連盟主催の全中大会が令和8年度に無くなると言われているなかで、実際に大会がないのに（子供たちは）何を頑張るのか。

競技によって、例えば新体操の場合、体操協会がそれに代わる大会を行うとのことで、目指すところはあるが、吹奏楽やサッカーなど、クラブチームの大会はあっても、全中に代わる大会の有無について情報が全く保護者に入っていない。ぜひ行政側として、明確な情報を伝えていただきたい。

【臥雲市長】

（全国中学体育連盟や全中大会について）そうした情報が皆さんに十分届いていないとなれば、そこはすぐにでもやらなければいけないと思う。

私の認識としては、ほぼすべての種目で、全中、中学校〇〇大会という冠は無くなるが、そういうクラブが当然参加できる全国大会に名称が変わって大会は続いていく。ほぼすべての種目、メジャーな種目はそのようになっていると、非常に競技人口の少ない種目は別だが、そのように認識している。

既に軟式野球は、中学校の学校単位の部活としては成り立つ学校がなくなって、結果的に今は合同チームの形でクラブという名称を変えて、清水中学校と丸ノ内中学校の生徒さんと、軟式野球がいわば合同チームの発展形としてのクラブという形になって、全国の日本一を決める大会に出場している。

二極化の問題については、どんどん進んでいく、「ほどほどに頑張りたい、真剣に自分もやりたい」と思うところが、従来の部活が引き受けてきたところで、そこが無くならないように、というのは重要なことと思う。

6 まとめ

【臥雲市長】

まずは、平形さん青木さん飯島さん、遅くまでありがとうございました。

部活の地域移行、中学校の全面改修、大人がかかわっての話ではあるけれど、一番の主人公は、中学生、生徒であるので、改めて今日指摘をいただいたことについて、しっかりと私も、教育委員会も、学校現場も受け止めて、より良い方向を考えていきたいと思います。ありがとうございました。

また、それぞれのお立場から様々なご指摘をいただいて、もちろん今すぐ手を打つ、取り組むということが必要なことがたくさんありましたので、そのことを今日ここにいない部局の担当にも、私や今日の主催をした住民自治局からしっかりと声を伝えて、そして何らかの形でこうなったということが、皆さんにお伝えできるよう取り組んでいきたいと思っています。

そのうえで、丸ノ内中学校が全面改築するという、これから数年のうちは向けて、非常に大きな取り組みがあるということが、ご指摘いただいた今取り組まなければいけない問題を、前に動かす意味でも非常にチャンスだと思って私は受け止めますし、皆さんにもそのことを共有していただいて、今通っている中学生の時には、まだ出来ていませんが、今通っている中学生の声が聞こえたものにしなければいけません。

また、いずれこの中学校に通う、あるいは既に卒業した人たちにとっても、この中学校を自分たちも何らかの形で関与して作っていくんだ、そして、そのことが自分たちが抱えている問題を少しでもいい方向にもっていくんだ、いけるんだ、ということにつながるように、市役所を挙げて取り組んでいきたいと思っていますので、どうかよろしくお願いします。

今日はどうもありがとうございました。

【町会連合会 手塚会長】

今日は、熱心なご発言をいただきありがとうございました。いろいろなご意見の中で、特に私の心に残ったのは、生徒会長の「地域の方々ともっと交流したい」という発言は非常にうれしかったし、また、地域に投げかけられた課題でもあるのかなとも思っています。

もう一つは、PTA副会長さんから話がありましたが、不登校の子どものことで、非常に心に刺さったわけではありますが、ぜひ市長さんをはじめ、市当局の皆さんがしっかり受け止めていただき、みんなが「学校が楽しい、成長していくことが嬉しい」と、それが教育でなされることが大事でないかなと感じました。

特にいろいろな意見がでましたけれど、市長さんから丁寧で真摯なお答えをいただくことができて、ありがとうございました。

今日は、地域と学校、学校と地域がどうあったらいいか、という課題について、話し合いのスタートに着いたと思っています。これからが本番だと、いろいろな課題について整理しながら討論を深めて、実現していきたいと思っています。

座談会に参加いただいたオブザーバの方々、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

皆さんご苦労様でした。お疲れ様でした。